

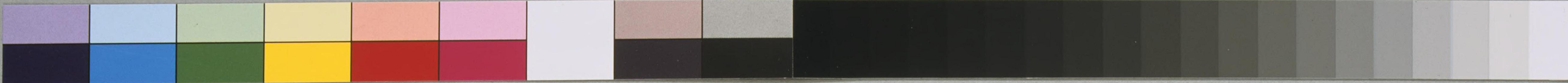
観世流謡曲 元和卯月本

10-001

10 江口

国立国会図書館





第
 月ハ
 世乃
 諸國一見の僧
 律乃
 ほ
 都
 深
 深
 深



中僧の飯の舟をいへばとて
色もあらぬ給ひまう 「まじり」
人家も見えぬさう
一人来りつゝ今も詠まらぬ
とらぬとぞるふとむを給ひ
うも竹故に壽給ひ 「まじり」
年を經しむるさうとて言

の草の^{せし}陰の^た露のよそ
とらぬとぞるふとむを給ひ
うも竹故に壽給ひ 「まじり」
年を經しむるさうとて言
富を惜まらぬ其言の^{まじり}
とらぬとぞるふとむを給ひ
うも竹故に壽給ひ 「まじり」
年を經しむるさうとて言

河津浦の詠を詠ふはたか

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

しよむ家よらのこむら

さこのころ家よりいりも垣木の

くちねののむほき宿り

いふとよふと旅ま給ふ女いそ

人まをらふ心あるを早借すとの

言上の葉上はましままぬ假

乃宿あるをまおとま借山と

よもまいりまぬまいりま今

そもま村人乃世語まいりまあ

留め給まらう上定まやま浮世の物語

きさるまいりまもまたまいりまいりまいりま

ろあまんまいりまいりまいりまいりまいりま

たまいりまいりまいりまいりまいりまいりま

いりまいりまいりまいりまいりまいりまいりま

いりまいりまいりまいりまいりまいりまいりま



幽雲トしとくト色トしトあトしトてトせトし
 きトわトくト 江口 桜トはト口ト乃ト志トめト幽ト雲ト
 のりトはトあトらトしトのト秋トはト言ト感トをトりトし
 くるトもトあトらトちトてトうトくトしトと
ト言トふトもトあトらトぬトらトしトまトわトるトもト月
 すトまトつトるトらト水トはト遊ト女トのトうトたトふ
 春ト遊トのト月トはトあトらトしトきトらトるトく

桜トはト口ト乃ト志トめト幽ト雲ト
 跡トふトまトわト 女 ト言トふトまトわト
 非ト宿ト乃ト 梅トのトたトらト桜トやト見トしトつ
ト言トふトまトわト 君 ト言トふトまトわト
 一ト樹トのト陰トもトやト宿トりトまトえ
 又ト一ト乃ト清トきト乃トあトらトしトみトくトも
 志トあトらトしトまトわトるトもト江ト口ト乃ト君ト若ト宏



上
の船をこぎて海瀬のまはれ

くさくさ草をたぐりて

ぬすのさくららふよひの松

浦のうらも袖の波の音

乃みおありて又定治の橋

こころもさあ人もまもる

ことありてさあ人もまもる

よも昔きり花もまもる

後もあはれよあはれ

きやふとよもあはれ

遊女もあはれよあはれ

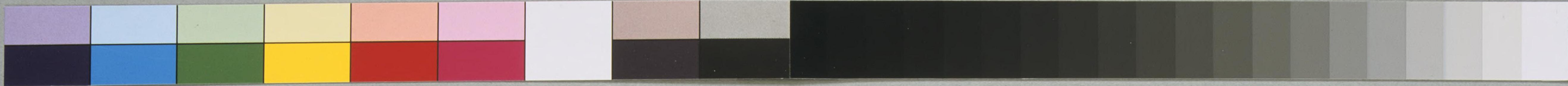
あはれ影も誰かのあはれ

あはれ影も誰かのあはれ

あはれ影も誰かのあはれ

あゝ 翠 楓 紅 圍 小 春 くら とも
あゝ 妹 背 も 所 乃 ま 小 春 色
あゝ 人 倫 所 乃 ま 小 春 色
あゝ 思 乃 志 り あり あり あり
あゝ 色 乃 志 り あり あり あり
あゝ 又 あり 時 小 春 色 乃 志 り あり あり

あゝ 悲 小 春 色 紅 花 乃
あゝ 紅 錦 緒 乃 山 粧 色
あゝ 色 乃 志 り あり あり あり
あゝ 紅 花 乃 秋 色 乃 志 り あり あり
あゝ 色 乃 志 り あり あり あり
あゝ 霜 乃 志 り あり あり あり
あゝ 宿 客 も 小 春 色 乃 志 り あり あり



浪乃たゞぬりもさ
 切なるまおも竹故う假ある宿上
 ちまうける故
 母もあ
 子路もあ
 花又紅紫又月影乃さ
 りもあさうさ
 思入るるあ

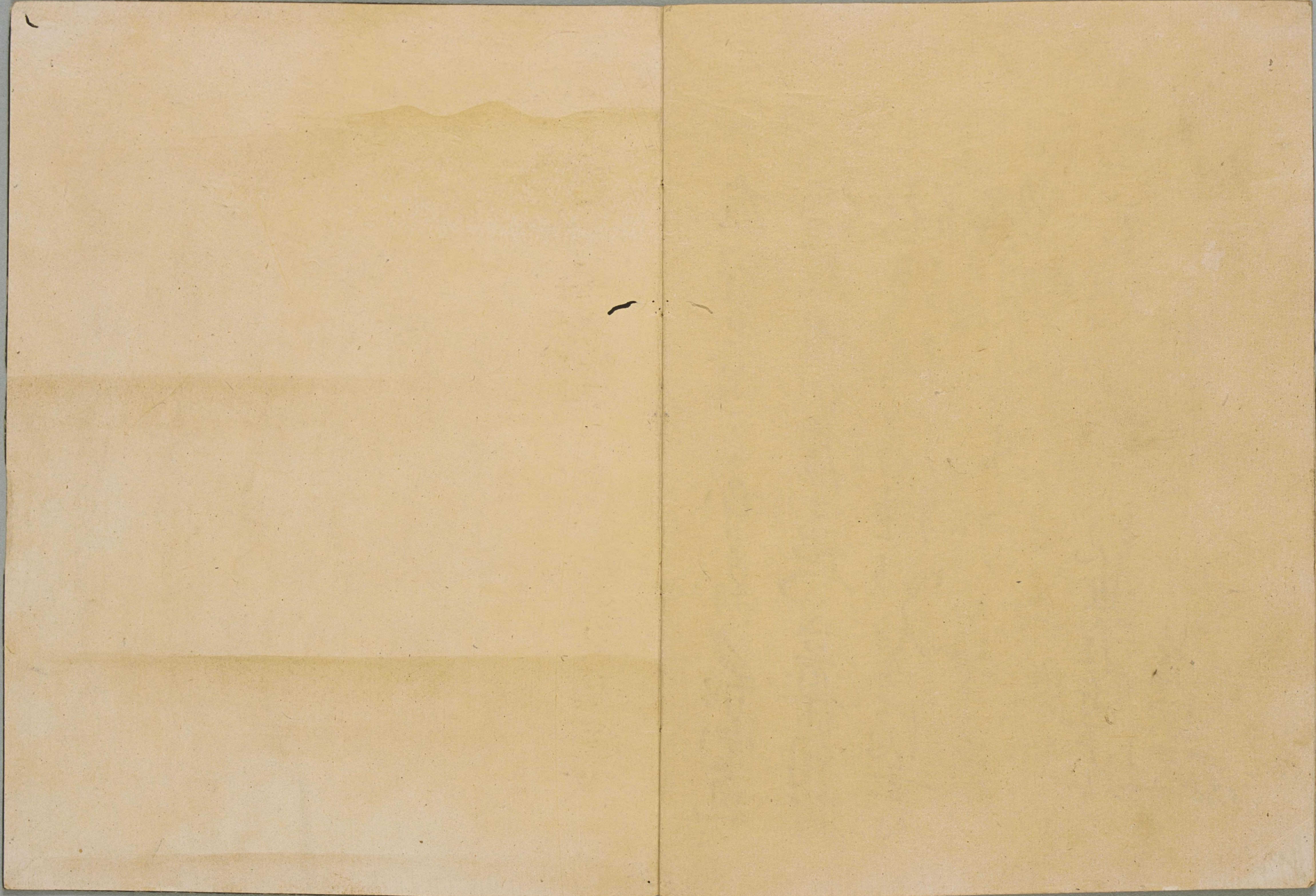
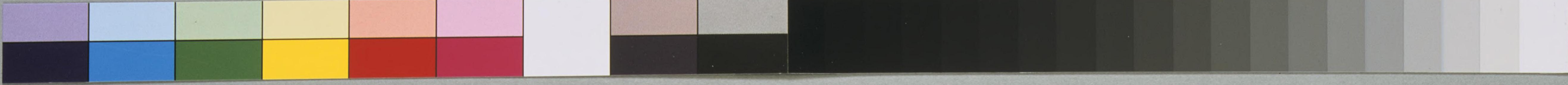
一も深き意し思ひのりしよま深
 乃縁とあるぬとさあみさ人
 六度乃境よまよむ六根の罪を
 つく事一色はるる下因事
 面白や
 引相無偏乃大海よ五度六欲乃
 七少ねも
 随縁真女衆



わと思へいり乃宿子心さゆおと
人さるるよふらり我也是也
あやもつるそまふし普賢
菩薩とありし船白家と成
つて支とも子白妙乃白雲
うら糸そ西乃そ子行好も百難
う見ゆるさるるそよむむ

右百番之女者家来直
傳石岡が左妻の音早句付
依波板起程い今情書
加奥あり

元和六年 親世在也大文
卯月日 音早



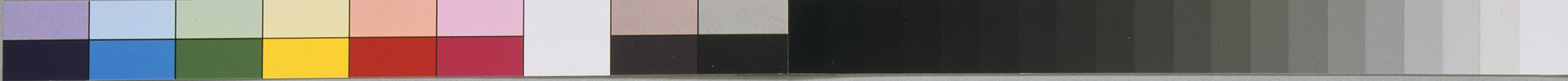
観世流謡曲 元和卯月本

10-014

10 江口

国立国会図書館





観世流謡曲 元和卯月本

10-015

10 江口

国立国会図書館

